

国 語

注 意

1. 問題は全部で18ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7	<input type="radio"/> 8	<input type="radio"/> 9	<input type="radio"/> 0
---	----------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

—
次の文章を読んで、後の問に答えよ。

われわれは不安な時代をきている。国際情勢、就活、地震、老後、失業、結婚、保育園、ハラスメント、親の介護、体調、うつ、¹詐欺、盗撮や痴漢をされる不安、痴漢をしたと誤解される不安、その他もろもろ……。

一九八〇年代初頭、われわれは『ジャパン・アズ・ナンバーワン』(エズラ・ヴォーゲル)といわれ、希望に満ちた日々を過ごしていた。日本で作りだされる製品こそが、どれも世界最先端のものであって、人類の生活スタイルを変えていくと思えていた。日々開発される便利な機械を使いこなすのに追われながら、電卓、電子手帳、ワープロ、エアコン、スポーツカー、電子レンジ、平面テレビ、パソコン、インターネット……、いよいよ便利さと、安全と豊かさを享受できるようになる「未来」があった。

一九八五年のつくば科学万博(未来博)では、壁掛けテレビやカーナビやネットが未来の製品として紹介され、数十年後にはガンが治るようになっていくという展示があったが、それらはみな、本当だった。本当以上に本当だった。当時は黒澤明監督の映画『生きる』(一九五二年)にも描かれていた不治の病であり、その診断は死刑宣告のようなものだったが、今日では時間との競争となっている。ガンになるのが、一年遅ければ、それだけガンが治る可能性が増すというわけだ。

それなのに今日、ひとびとが浮かない顔をしているのはなぜだろう。科学万博の主催者たちも、まさかこんなことになっていくと「予想」してはいなかったことだろう。ひとを幸福にすることは、科学技術だけでは無理なのだ。

科学技術のおかげで、人類を脅かすすべての不安材料が払拭され、ひとはいよいよ安全で便利な生活をするようになってきた。せいぜいキューブリック監督『2001年宇宙の旅』(一九六八)に登場するHALのようなマザー・コンピュータが、人間に取って代わることになるかもしれないと危惧されていたくらいだった。その映画は、科学技術の楽観主義にちよつとした A を投げかけていたが、しかし、問題はもつと深刻だったことが、いま少しづつ見えてきている。

人類に取って代わりそうなのは、巨大なマザー・コンピュータではなかった。スーパーコンピュータでもない——それは膨大

な計算を素早くするだけだ。

AIとはいえば、それほどすぐくない数多あまたのコンピュータにインストールされ、いつのまにか人間の仕事を交替していく「優れもの」である。事前にすべての対応を組み込んでいるという意味でのプログラムではなく、事後的にプログラムを自動生成していくというプログラム。自分で自分の判断を変えていく仕組に、コンピュータは生まれ変わった。

判断すべき条件とデータを増やしていき、結果をいつもフィードバックすることによって、監査したり、診断したり、記録したり、調査したりと、専門家の判断と同等か、それ以上に正しい判断に到達する。大多数のひとが、人間よりもAIに任せられた方が安心であると思いはじめる。

² それはそうだ、とわたしも思う。たとえば重い病気でないと不安なときは、たまたま出会った技量の分からない医師よりも、——もちろんネットの半可通の回答者たちよりも——、AIに答えを出してもらった方がよさそうである。なにしろ将棋に一生を捧げているひとたちを、生まれて数年のAIが容易に負かしてしまうくらいである。医療や戦略など、限定された領域で生じる条件の組みあわせとその対処法についての判断は、AIの方が優れているに違いない。

あるひとたちは、AIの普及が管理社会を生み出すとか、個人のプライバシーがなくなってしまうとか、人間が機械に支配されるようになるとか、人間の仕事が奪われるとかいって、盛んに警鐘を鳴らしている。

それは間違っではないと思うのだが、もっと大きな問題がある。それは、ひとびとの、さきに挙げたような不安を、AIは解消してくれそうにもないということである。

たとえば、わたしが失業しそうになって「うつ」の症状が出ているとして、もしAIが普及していたなら、その判断はどのようなものになるであろうか。転職の条件や状況について、あるいはどんな薬を服用すればいいかについては、正しい判断を与えてくれるだろう。だが、がんばれないわたしが、資本主義の根本的問題や社会保障政策の問題点などを考察しながら、自分の将来の目標を合理的に決定せず、したがってその適切な手段を実行しようとするなら、——「愚行権」といってもいいが——、それに対しては、どんなアドバイスをしてくれるだろうか。

AIは、「成りゆきまかせ」や「いちかばちか」や「横並び」や「放置する」や「なし崩しにする」や「破滅してもいい」といったタイプの動機に対して、どんなアドバイスをしてくれるだろうか。

まして、ひたすら親との確執に苦しんでいるひとや、新宗教の教義に囚われてしまっているひとや、B ひとなど、他人の判断をまったく受け容れる姿勢のないひとたちの抱えている問題に対しては、そもそもどんなアドバイスがあり得るだろうか。

AIは、マザー・コンピュータではない。つまり、母親のように、あなたを気にかけてはくれない。AIには、人類の未来や個人の将来を心配し、社会的諸条件と一人ひとりの意識を調停しようとする性質が原理的にない。そのことの方が、もっと問題である。

AIは判断を創出しているのではなく、ひとびとのあらゆる判断を、ひとが感覚できないものまでのさまざまなデータを含め、——急ぐことでは「エッジ・コンピューティング」として自前のメモリで対応するが——、ネット上のクラウドを介して繋がりがあって、ひとが記憶できないほどの大量のデータ(ビッグデータ)を用いてシミュレートするだけである。

正しい判断をするのではなく、正しいとされた判断をさらにデータとしてインプットして、正しいとされる判断の確率を上げていくだけだ。AIスマートロボットがギャグをいうにしても、それは世界中のひとたちの笑いの反応をクラウドを通じてフィードバックしているからであって、それらにとってはちっともおかしなことではないのである。

AIにとって、人間は光学センサーの眼のまえにいるのではなく、クラウド(群衆)という霧よのなかにいて、クラウド上のデータのなかから抽出されるC 存在者でしかない。正しさを判断するのはどこまでいっても人間であり、そもそも「正しさ」は人間にとつてのものでしかない。機械にとつての正しさは、* 精確に作動すること、* バグがないことでしかないのだ。誤りも、ただ訂正すべきデータにすぎず、それらにとつては、恥はずべきことではない。

したがって、もしAIにありとあらゆる判断を任せてしまうとしたら、それは確かに何らかの判断を示すだろうし、その判断は、いずれにせよ多くのひとが納得する妥当な判断ではあるだろうが、しかしそこに「未来」はない。

未来とは、現在よりもよい状態になっているはずの、これから先のある時点のことである。単に時間の未来ということであれば、いつの時代にも未来はあるが、それはひとが期待して、それに向かって努力しようとする「未来」ではない。AIの説く未来は、現在の延長でしかない。

AIの前提する未来においては、ただ時だけが刻一刻と経ち、曆がその数を積み上げていく。それは、時間測定法における未来であって、われわれの「未来」ではない。そこに夢や希望はない。未来という語が夢や希望という語と相重なっていた時代が終わり、未来という語で、せいぜい似たような要素がくり返し姿を現わす退屈な現在か、あるいはいたるところ、現在の廢墟としての、破滅と悲惨とが組み込まれた疑似過去が待ち受けるばかりとなる。

AIの判断は外挿法的シミュレーションであり、過去に起こったことを未来に引き伸ばして予想する、その推測を詳細に徹底したものである。ルールがあつて条件の変化しないものに対しては最強であるが、あり得ないことに挑戦するとか、いつもと違ったことをやってみるといふ判断は、そこにはない。ところが、そうした D のことをなそうとする判断の向こうこそ、人間の考える「未来」がある。

ルーティン化した業務における判断に対し、その判断の帰結から生じる悲劇についての感性こそが、人間の判断を賦活⁵して、いつもとは異なつた判断へとひとを差し向ける。夢や希望という名のもとに、明確なイメージがないとしても、ひとはそれぞれに「未来」に向けて判断しており、その場の「課題の解決」だけを考へているわけではないのである。

AIが普及するということは、社会におけるさまざまな業務の運営が自動化され、人間からするとすべてが成りゆきまかせで何とかなるようになるということである。そこには、判断に意義を与えてきた「未来」を考へる人間がいなくなつてしまふ。

だから、わたしがAIに心配するのは、AIが人類を未来の消失から救つてくれそうにないということなのだ。むしろ、それ⁶に加担する装置なのではないかということだ。

(船木亨『現代思想講義』による)

*エズラ・ヴォーゲルⅡアメリカの社会学者。

*エッジ・コンピューティングⅡユーザーの端末近くにサーバーを分散配置し、距離を短縮することで、通信遅延を抑える技術。

*バグⅡコンピュータなどのシステムに潜む欠陥。

問一 傍線部1「詐ギ」の「ギ」を漢字で記せ。問一は解答用紙(その2)を使用。

問二 空欄 A に入る語句として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 1。

- ① 賛辞 ② 話題 ③ 辛酸 ④ 懷疑 ⑤ 苦惱

問三 傍線部2「それはそうだ、とわたしも思う」とあるが、筆者はなぜそのように思うのか。その説明として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 2。

① AIは、監査したり、診断したり、記録したり、調査したりすることが得意で、管理社会を生み出す能力を持っていると、筆者が考えているから。

② AIは、事前にすべての対応を組み込んでいて、どのような事態にも対応可能なので、技量の分からない医師や専門家よりも信頼できると、筆者が考えているから。

③ AIは、事後的にプログラムを自動生成していくことができ、自分で自分の判断を変えていく仕組みを持っており、人間の仕事を奪う可能性があるとして、筆者が考えているから。

④ AIは、ある限られた範囲において、どのような状況が起こり、それらがどのように影響しあうのかを判断し、その対応を見つけ出すのは人間よりも優れていると、筆者が考えているから。

⑤ AIは、個人のプライバシーを喪失させることはなく、むしろプライバシーを保護するプログラムを自動生成することによって、プライバシーを強固に保護することが可能だと、筆者が考えているから。

問四 傍線部「不安を、AIは解消してくれそうにもない」とあるが、それはなぜなのか。その説明として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **3**。

- ① AIは、資本主義の根本問題や社会保障政策の問題点などを考察する機能を持っていないから。
- ② AIは、人類や個人の未来を考慮し、社会的な様々な条件と個人々の意思や希望を調整する機能を持っていないから。
- ③ AIは、管理社会を生み出し、個人のプライバシーをなくして、人間を機械に支配させるようにする危険があるから。
- ④ AIは、愚行権を行使して、自分の将来の目標を合理的に決定しようとしないう人に対して、厳しい対応をするから。
- ⑤ AIは、「成りゆきまかせ」や「放置する」など、明確な意志のないタイプの動機に対しては、複雑な判断を示すから。

問五 空欄 **B**

に入る表現として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **4**。

- ① 自分の失敗をいつまでも悩んでいる
- ② やる気がでないことを嘆くばかりでがんばれない
- ③ 他人を支配しようとすることばかりに注力している
- ④ 自分の将来のために適切な手段を実行できないでいる
- ⑤ 自分ひとりでは解決できない深刻な問題にさらされている

問六 空欄 **C**

に入る語句として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **5**。

- ① 仮想的
- ② 偶発的
- ③ 意図的
- ④ 臨時的
- ⑤ 統計的

問七 傍線部4「あるいはいたるところ、現在の廢墟としての、破滅と悲慘とが組み込まれた疑似過去が待ち受けるばかりとなる」とあるが、どのような意味か。その説明として最適なもの、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は6。

- ① いたるところで紛争が起こり、世界は破壊と悲慘に満ちた状況になるということ。
- ② いたるところが荒廢し、破壊と悲慘がくりかえされる「未来」のない世界が出現するということ。
- ③ いたるところが破壊され、悲惨な状況になり、戦後社会を彷彿させるような未来が待っているだけになるということ。
- ④ いたるところで破壊が進み、社会は悲惨な状況になって、現在の都市が廢墟化した状況が待ち受けているということ。
- ⑤ いたるところが廢墟と化した現在の姿であり、過去の破滅と悲慘によく似た状況が待っているだけになるということ。

問八 空欄 D に入る語句として最適なもの、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は7。

- ① 個別
- ② 異例
- ③ 過去
- ④ 未完
- ⑤ 理想

問九 傍線部5「人間の判断を賦活して」とあるが、どのような意味か。その説明として最適なもの、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は8。

- ① 人間の判断を迷わせるということ。
- ② 人間の判断を的確にすること。
- ③ 人間の判断を活発にすること。
- ④ 人間の判断を変えさせるということ。
- ⑤ 人間の判断を冷静にさせるということ。

問十 傍線部6「それに加担する装置」とあるが、どういう意味か。その説明として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **9**。

- ① 夢や希望のある未来を消失させることに力を貸す装置ということ。
- ② あり得ないことに挑戦する人々の意欲を消失させる装置ということ。
- ③ 人間がすべてを成りゆきまかせにすることを加速させる装置ということ。
- ④ 社会におけるさまざまな業務を自動化するために力を発揮する装置ということ。
- ⑤ ルーティン化した業務における判断に対して、その判断を強固にする装置ということ。

問十一 本文の内容と合致しないものを、次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **10**。

- ① AIには、個々人の病状に合わせた薬を処方することは困難である。
- ② コンピュータは、自分で自分の判断を変えていく仕組みに生まれ変わった。
- ③ 一部のひとたちは、AIの普及によって、人間の仕事が奪われると警鐘を鳴らしている。
- ④ AIは判断を自ら創り出しているのではなく、ひとびとのあらゆる判断を、大量のデータを用いてシミュレートするだけである。
- ⑤ 科学技術のおかげで、ひとはいよいよ安全で便利な生活をするようになると考えられていたが、われわれは不安な時代を生きている。

二 次の文章は、宮仕えに出ている作者が、同僚の女房とともにいるところに、ある殿上人(男性)が訪問してきたところである。これを読み、後の問いに答えなさい。

上達部、殿上人などに対面する人は、定まりたるやうなれば、うひうひしき里人は、ありなしをだに知らるべきにもあらぬに、十月ついたちごろのいと暗き夜、不断経に、声よき人々読むほどなりとて、そなた近き戸口に二人ばかりたち出でて聞きつつ、物語して寄り臥してあるに、参りたる人のあるを、「逃げ入りて、局なる人々呼び上げなどせむも見苦し。さはれ、ただ折からこそ。かくてただ」と言ふいま一人のあれば、かたはらにて聞きあたるに、おとなしく静やかなるけはひにてものなど言ふ、くちをしからざなり。

「いま一人は」など問ひて、世のつねのうちつけのけさうびてなども言ひなせず、世の中のあはれなることどもなどこまやかに言ひ出でて、さすがにきびしう引き入りがたきふしおしありて、われも人も答へなどするを、「まだ知らぬ人のありける」などめづらしがりて、とみに立つべくもあらぬほど、星の光だに見えず暗きに、うちしぐれつつ、木の葉にかかる音のをかしきを、「なかなか艶えにをかしき夜かな。月のくまなく明あからむも」

A

まばゆかりぬべかりけり。

春秋のことなど言ひて、「時にしたがひ見ることには、春霞おもしろく、空ものどかに霞み、月のおもてもいと明うもあらず、遠う流るるやうに見えたるに、琵琶びわの風香か調ゆるるかに弾き鳴らしたる、いとみじく聞こゆるに、また秋になりて、月いみじう明きに、空は霧りわたりたれど、手にとるばかりさやかに澄みわたりたるに、風の音、虫の声、とりあつめたるこちするに、箏そうの琴かき鳴らされたる、横笛の吹き澄まされたるは、なぞの春とおほゆかし。また、さかと思へば、冬の夜の空さへ冴えわたりいみじきに、雪の降りつもり光りあひたるに、筆ひのわななき出でたるは、春秋もみな忘れぬかし」といひつづけて、「いづれにか御心とどまる」と問ふに、秋の夜に心を寄せて答へたまふを、さのみ同じさまには言はじとて、

あさみどり花もひとつに霞みつつおほるに見ゆる春の夜の月
と答へたれば、かへすがへすうち誦じて、「さは、秋の夜はおほし捨てつるななりな。

今宵より後の命のもしもあらばさは B の夜を形見と思はむ
と言ふに、秋に心寄せたる人、

人はみな春に心を寄せつめりわれのみや見む秋の夜の月

(『更級日記』による)

(注)

*うひうひしき里人：作者のこと。

*不断経：昼夜絶えず僧たちに経を読ませる仏事。

*いま一人：同僚の女房。

*風香調：琵琶の調子の一つ。

*箏の琴：十三絃の琴。

*箏篳：竹製の管楽器。

問一 傍線部「十月ついたちごろ」にふさわしいこの夜の気象現象を、本文中から五字以内で抜き出せ。問一は解答用紙(その2)を使用。

問二 傍線部2「参りたる人」、傍線部4「いま一人」、傍線部7「秋に心寄せたる人」が指し示す人物は、それぞれ誰か。次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は、2「参りたる人」**11**、4「いま一人」**12**、7「秋に心寄せたる人」**13**。

① 作者

② 同僚の女房

③ 客人に対面する役の女房

④ 殿上人

⑤ 読経をする人

問三 傍線部3「かたはらにて聞きみたる」とは、誰がどうしていることか。最適なものをお次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は**14**。

① 作者が、訪問者の相手をせず、読経の声を聴いていること。

② 作者が、対応役の女房たちが話し合うのを聞いていること。

③ 作者が、訪問者と同僚女房が話をするのを聞いていること。

④ 同僚女房が、対応役の女房たちの相談を聞いていること。

⑤ 同僚女房が、訪問者と対応役の女房との会話を聞いていること。

問四 傍線部5「世のつねのうちつけのけさうびて」とは、どういうことか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **15**。

- ① 世俗のことを超越して仏道に深い志を抱いていること。
- ② 多くの人ができるように、さしさわりのない挨拶を交わすこと。
- ③ その場限りのしゃれた会話をそつなくこなすようにふるまうこと。
- ④ 突然の事態にとまどっていることを隠すように、気取ってみせること。
- ⑤ 世間の普通の男によくあるような、軽く言い寄るそぶりを見せること。

問五 空欄 **A** に入る語として最適なものを①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **16**。

- ① をかしく
- ② さやかに
- ③ あはれに
- ④ はしたなく
- ⑤ つきづきしく

問六 傍線部6「なぞの春とおほゆかし」とは、どのような意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **17**。

- ① どのような春だと実現できるだろうかと思われる。
- ② やはり春の魅力には及ばないという気がする。
- ③ いったい春の何がよいのだろうと思われるほどである。
- ④ 春ではなく空気の澄んだ秋でなければ味わえない風情である。
- ⑤ 不思議に春の魅力がよみがえってくるような気がする。

問七 空欄 **B** に入る語として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **18**。

- ① 春
- ② 秋
- ③ 冬
- ④ 月
- ⑤ 琴

問八 『更級日記』より後に成立した作品を、次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **19**。

- ① 枕草子
- ② 和泉式部日記
- ③ 落窪物語
- ④ 拾遺和歌集
- ⑤ 今昔物語集

三 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

われわれはそれぞれに「交際圏」をもっている。「世間」をもっている。だが、「交際圏」が「交際圏」であるためには「交際」という行為がなければならぬ。おたがいが、なんらかの方法でつながっていることを確認しあうことで、はじめて「交際」が成立する。その行為のことを「コミュニケーション」という。

「コミュニケーション」ということははもともフランス語の *communication* にはじまって、まずフランス語の語彙となり、それが近世英語になったもの。だが、それが世界的規模で頻繁につかわれるようになったのは二十世紀なかばのことであった。日本でこのカタカナ語がはじめて出現したのも一九五〇年代のこと。新語である。

コミュニケーションの基本になるのは「面談」である。人間どうしジカに会って話をするのである。目と目があつて、それになにかを合点する。とにかく人間と人間、おたがいに理解を深めるためには直接に会って話をするにこしたことはない。「顔と顔」の直接コミュニケーションだから *face to face*、略して *FTF* などともいう。(A)

じつさい、人間の「顔」というものはおもしろい。おたがいに目鼻をはじめいくつもの器官をもっているが、それぞれの配置はひとよつてちがう。「他人のそら似」といわれるほど似ているひともあるが、それぞれの個人の顔というものはそれぞれに微妙にちがう。ちよつと見ただけで、それがだれであるかがわかる。わたしたちはうまれながらにして、おたがいの生きた「顔」を識別するふしぎな能力をもっているのである。現代の技術はひとの眼窩がんかや鼻梁びりょうなどいくつもの点を三次元でつなげて「顔認識」を可能にして出入国の管理に応用したりするようになったが、生きた「顔と顔」の相互認識能力というのはおそろしいほど正確だ。

本人確認ができて、やっと「顔と顔」のおつきあいができる。どこにいても認識してもらえただけ交際の範囲がひろければ「顔がひろい」といふし、そのひろさによつて世間からタヨリにされる「顔役」¹もいる。「顔」こそが個体識別の有力な手段だから、「顔を立てる」「顔にドロを塗られた」「顔パス」など、「顔」という観念は A に拡散している。「顔」²あつての人間コミュニケーションなのである。(B)

外交関係にしてもそうだ。交通・通信手段が飛躍的に進歩したこんにち、それぞれの国の大統領や首相は相互に招待したり訪問したり、定例の会議を開催したりして、「個人的関係」を構築することにとめる。外交のことは大使館をつうじてやっていたらいい、というのは理屈だが、指導者どうしが「面会」しなければいけない問題は解決できない。すくなくとも友好関係を維持するためには「顔と顔」が物理的、いや **B** に向き合うことが必要なのである。

ではなぜ「顔と顔」の対面コミュニケーションが必要なのか。それは生身の人間どうしが至近距離で向き合わなければおたがいを「体感」できないからである。「体感」というのは、おおげさにいえば全人的接触³ということである。現実生きて、呼吸している人間にはまずその身体があり、握手すれば体温を感じることができる。(C)

そうでなくても恋人どうしは、ただいっしょにいただけでたのしい。デートがおわって、さよなら、といったとたんにまた会いたくなる。友人どうし、いちど会いたいなあ、と喋って欲談したり食事をもにしたくなるのも生きた人間の「体感」をもとめているからだ。

会えば、相手の服装、歩き方、一挙一動、表情、女性のばあいだったら持ち物、アクセサリ、化粧のかすかな香料のにおいにいたるまで、そのひとをとりまく「雰囲気」がまずわたしたちの感覚器官にとびこんでくる。「ことば」によるコミュニケーション以上に強烈なのは人間の存在そのものが発する「実在感」なのである。

学校の授業も「実在感」があるから大事なのだ。科目が数学であろうと英語であろうと、学習欲のある学生なら教科書や参考書を読めばたいいのことは学習できる。それにもかかわらず、きめられた時間に教室で席につくのは文字どおり目と鼻の先で講義なさっている先生の肉声にふれ、黒板に書かれる文字を目で追うことによってはじめて生き生きとした学習が体験できるからである。前後左右にいる級友たちの呼吸が感じられ、かれらと共通経験をわかちあうことができるからである。ノートや辞書をめくる紙ずれの音、教室のなかのあの独特のにおい。そうした全感覚を動員した「体感」があるからこそ学校という場での教育がだいじなのだ。(D)

実務の世界でも、ふだんは電話ですむような用事でも、相手方としっかり商談を煮つめ、数千万円におよぶ交渉や契約、とい

うことになる、テーブルをはさんでなんべんも「面談」することが必要になってくる。めでたく商談が成立すれば、どちらかが席を設け、⁴「一夕を談笑のうちにすごす」といったこともあるだろう。話題はささいな世間話。あとはカラオケといった宴席であつても、一種の皮膚感覚のようなものが相互に刺激されて「交際圏」を強化してくれるのである。

そればかりではない。⁵「体感」によるコミュニケーションはいろんな解釈も可能にしてくれる。なごやかな会話をたのしんでいるようにみえても、相手が腕時計に目をむけているのは、そろそろ切り上げたい、ということを意味している。俗に「目は口ほどにものをいい」ともいう。^{*}ゴフマン(Erving Goffman)の有名な「顔のはたらき」(Face work)もこのような「ことば」にとらわれないコミュニケーションについての考察であつた。歌舞伎の名セリフに「互いに見交わす顔と顔……おお、読めた」というのがあつるが、ひとが「読む」のは「ことば」だけではない。「顔」をはじめ、さまざまに「しぐさ」も読みとる能力をもっているのである。(E)

それに「ことば」が発せられていても、そのことばを体感的にうけとることができないこともある。たとえば不祥事があると、当事者が「このたびは多大のご迷惑をかけ……」と定型文のお詫びのことばをのべ、「再発防止に努力いたします」といって最敬礼する情景にはテレビでよくおめにかかるが、あれはおおむね用意された文章をただ読み上げているだけ。だから、あんまり反省・謝罪の「気持ち」が伝わってこない。そういうとき、謝罪されるほうは、「誠意がない」といって不満をしめす。おおげさに土下座されても体感的にはかえって不愉快だ。ちゃんと謝っているじゃありませんか、といつても無駄である。「巧言令色鮮すなまきかな」^Cともいう。コミュニケーションというものはやたらにおしゃべりをするからいい。というものではなさそうである。

(加藤秀俊『社会学 わたしと世間』による)

*ゴフマン(Erving Goffman)はアメリカの社会学者。

問一 傍線部1「顔役」と似た意味の語に「顔○」がある。○に入る語句として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **20**。

- ① 見知り
- ② 自慢
- ③ 立ち
- ④ 利き
- ⑤ 馴染

問二 空欄 **A** に入る語句として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **21**。

- ① 飛躍的
- ② 比喩的
- ③ 段階的
- ④ 漸増的
- ⑤ 爆発的

問三 傍線部2「顔」あつての人間コミュニケーションなのである」とあるが、どういう意味か。その説明として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **22**。

- ① コミュニケーションを円滑に進めるためには、仲を取り持つ人の存在が重要だということ。
- ② コミュニケーションの輪に入るためには、いろいろな場面に顔を出すことが必要だということ。
- ③ 人間どうしが直接相手の顔を認識することによって、本当のコミュニケーションが成り立つということ。
- ④ 自分の顔を世間にさらすことによって、人間関係も深まり、コミュニケーションもうまく進むということ。
- ⑤ 自分らしさを大切にして自然に振る舞うことが、コミュニケーションを成功させるためには大切だということ。

問四 空欄 **B** に入る語句として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **23**。

- ① 社会的
- ② 肉感的
- ③ 心理的
- ④ 精神的
- ⑤ 生理的

問五 傍線部3「全人的接触」とあるが、筆者がここで述べている「全人的接触」の例とは言えないものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **24**。

- ① 目配せする。
- ② 笑顔で会釈する。
- ③ 咳払いで合図する。

④ 「いいねー」とツイートする。

⑤ デートの時、相手の身につけているものを褒める。

問六 傍線部4「一夕」の読みを平仮名で記せ。問六は解答题用紙(その2)を使用。

問七 傍線部5「体感」によるコミュニケーションはいろんな解釈も可能にしてくれる」とあるが、その「解釈」の例として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **25**。

① 面談の相手が本題に入ったのは、話し始めて一時間も経過してからだ。

② 話相手が急に「帰る」と言い出したのは、自宅からメールがあったからだ。

③ 話相手が話題を変えたのは、こちらが過去のトラブルを持ち出したからだ。

④ 面談の相手が約束の時間に遅れたのは、途中で電車が二〇分も止まったからだ。

⑤ 話相手がスマートフォンを手から放さないのは、わたしの話に集中していないからだ。

問八 空欄 **C** に入る語句として最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **26**。

- ① 善
- ② 真
- ③ 仁
- ④ 誠
- ⑤ 徳

問九 次の一文は、本文中の(A)(B)(C)(D)(E)のいずれかの箇所に入る。この一文が入る最適な箇所を、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 27。

わたしたちがほんとうに深いコミュニケーションをかわすことができるのは、そういう「体感」をともなった現実の人間どうしの対面の場だけなのだ。

- ① (A) ② (B) ③ (C) ④ (D) ⑤ (E)

問十 本文の内容と合致しないものを、次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 28。

- ① 国家間の外交において、指導者どうしが直接会って話をすることは非常に重要である。
- ② その人が醸し出す雰囲気は、ことば以上にその人の実在感を周りの人々に印象づける。
- ③ 人間はそれぞれに異なる顔を持っているが、お互いに相手の顔を識別する能力は非常に高い。
- ④ 深いコミュニケーションのためには、直接話すことが何より大切で、そのために電話も有効な手段である。
- ⑤ 直接会ってコミュニケーションをすることが大切なのは、そうしなければお互いを直に感じるできないからだ。

